

令和 8 年 5 月  
宮崎県教育委員会

「新たな宮崎県立高等学校入学者選抜 実施方針（素案）」に対する  
パブリック・コメントの結果について

「新たな宮崎県立高等学校入学者選抜 実施方針（素案）」について、令和 8 年 3 月 25 日から 4 月 24 日までの期間、郵便・FAX・電子メールを通じて、広く県民等の皆様から御意見の募集を行いましたところ、47 名・団体の方から 112 件の御意見をいただきました。

いただいた御意見の趣旨とそれに対する県教育委員会の考え方は別紙のとおりです。

なお、パブリック・コメントの結果をとりまとめるにあたり、御意見の趣旨を踏まえて、整理したうえで、県教育委員会としての考え方を示させていただいております。また、『「新たな宮崎県立高等学校入学者選抜 実施方針（素案）」に対する意見公募（パブリック・コメント）実施要領」に基づき、意見募集対象となる御意見 107 件について、掲載しております。

今回、皆様から多数の貴重な御意見をお寄せいただきました。御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

「新たな宮崎県立高等学校入学者選抜実施方針(素案)」に対するパブリック・コメントの結果について

1. <視点1>「豊かな資質・能力」を育む選抜制度：「5教科の学力検査」と「学校独自検査」の実施について		御意見の趣旨	県の考え方
1	3頁	現行の推薦入試では課外活動重視で、理社等の学力検査が軽視されているため、5教科の学力検査を通じて中学校課程の学習内容を確実に習得させれば、高校の学びにつなげることができる。	本制度では、義務教育で育まれた多彩な資質・能力を多角的に評価するため、学力検査や学校独自検査等の結果を総合して選抜を行います。5教科の学力検査では、義務教育段階での学びの成果であり、高校教育の土台にもなる確かな学力の状況を測るための検査を行います。その上で、学校独自検査や調査書等を選考資料として活用し、学力検査だけでは捉えきれない生徒の良さや適性、日頃の取組を評価する選抜となるよう検討してまいります。
2	3頁	5教科の学力検査により、統一した基準で学力を把握でき、各志願校で共通の選抜材料として活用できる。	
3	3頁	作文・面接の評価の公正性に疑問がある。学力検査の一本化により、努力を評価しやすく、県民の信頼向上にもつながる。	
4	3頁	5教科の実施により、中学校での確かな学力を重視しつつ、各校が柔軟な配点で選抜し、主体的な進路指導が実現するよう期待する。	
5	3頁	学力検査の5教科一本化により、全受験生の学力レベルを統一基準で正確に把握できる。後期選抜への活用も視野に入れてはどうか。	
6	3頁	5教科の学習など受験勉強を通じた「学ぶ必要性」の実感は高校以降の意欲に繋がる。	
7	3頁	5教科の学力検査への一本化は、中学校における教科指導を充実させるとともに、生徒の進路に対する学習意欲の向上につながる。	
8	3頁	多様な評価を求める一方、経済格差による影響を懸念している。公平性の高い指標である学力検査を重視すべき。	
9	3頁	現状、推薦入試の影響で理社を軽視する傾向があるが、5教科への一本化は中学生が全教科と向き合い、基礎学力を定着させる良い機会になると期待する。	
10	3頁	新制度で、5教科化し基礎学力を担保して、学習姿勢が改善されることを期待する。	
11	3頁	独自検査と複数志願制は各校の魅力化と受験生の挑戦機会拡大に繋がる。偏差値偏重の指導を見直し、納得のいく進路選択の実現を期待する。	
12	3頁	5教科への一本化は入学後の適応力把握に不可欠である。また、学校独自検査の導入は、各校のスクールミッションを明確にし、地域への魅力発信と信頼獲得につながる。	
13	3頁	5教科化で中学生の学力向上を図り、中学生の学ぶ姿勢にもプラスにつながる。また、独自検査で各校の特色ある選抜を推進できる。	
14	3頁	独自検査の配点比率を柔軟化し、学力検査に依存しない多角的な選抜により、学校独自の特色ある教育と評価を推進することを求める。	本制度では、義務教育を通じて身につけた学力を学力検査で測るとともに、学力検査だけでは捉えきれない多彩な資質・能力も総合的に評価できる選抜制度とすることを目指しています。そのため、5教科の学力検査及び学校独自検査の配点及び割合については、学校や学科の特色に応じて弾力的に運用できる仕組みとすることで、学力検査のみに依存しない多面的・総合的な評価を行い、各校の特色を反映させた選抜が実現できるよう検討してまいります。
15	3頁	学力検査の一本化には一定の理解を示すが、格差は正と個性の評価のため、各校の独自検査の内容・割合を丁寧に検討し、生徒の意欲を引き出せる独自性のある制度としてほしい。	
16	3頁	5教科の学力検査実施には賛成であるが、「多彩な資質・能力」を掲げつつ、実際は「基礎学力重視」であるように感じられる。5教科導入の根拠を明確に示し、表現を「基礎学力を重要視した選抜」等へと変更してはどうか。	
17	3頁	5教科実施により、部活動や検定の評価が軽視されるのではないかと不安がある。テストの点数で見える学力と見えない学力の両方を評価してもらえるような制度にしてほしい。	
18	3頁	推薦入試の志願理由書のような実績や自分の頑張りを書くものは継続して欲しい。	様々な選考資料については、調査書の他、受験生の意欲やそれまでの取組の成果等を適切に評価する観点から、今後、具体的に検討してまいります。
19	3頁	「様々な選考資料」とは具体的に何を指すのか。従来入試との違いを明確に説明すべき。	

御意見の趣旨		県の考え方
2. <視点2>第1志望校に「挑戦」できる選抜制度：「複数志願制」の導入について		
1	4頁	複数志願制は、受験生の進路選択の幅を広げ、受験回数減少による負担軽減も期待できる。
2	4頁	入試の統合による公平性の確保と、複数志願制の導入による生徒の進路選択の拡大を期待する。
3	4頁	複数志願制は志願校に迷う生徒の選択肢を広げるとともに、受験回数の削減による生徒の負担軽減が期待できる。
4	4頁	複数志願制の導入は、生徒の選択肢を広げ、挑戦的な進路選択を可能にする。個々のキャリア形成にとってプラスであり、納得感の高い進路選択を支援する意義がある。
5	4頁	複数志願制は生徒の意欲向上に寄与する。
6	4頁	複数志願制は不合格リスクを軽減し、県立高校への挑戦を後押しする有効な制度である。
7	4頁	複数志願制による第1志望への挑戦は学力を高め、結果として学習と進路希望の一貫性につながる。
8	4頁	複数志願制は、広域受験をする地方の生徒にとっても、不合格時に地元高校を選択できる道が開かれるため、受験生に安心感を与える。
9	4頁	複数志願制は受験生にとってメリットがある。
10	4頁	複数志願制に賛成。複数高校の併願と同時に、これまで同様、同一校内の学科選択を確保してほしい。
11	4頁	複数志願制による選択肢の拡大に賛成。定員内不合格を出さぬよう配慮し、地域に根差し、特色ある教育で全生徒の学びを保障する魅力的な県立高校作りを期待する。
12	4頁	複数志願制には賛成。一方で、県立高校の魅力向上や、私立進学を前提とした入試の在り方を想定すべき。また、公立の役割として、定員内不合格を出さないことも原則にしてほしい。
13	4頁	複数志願制により、高校間の格差拡大や、地域間格差などが生じるのではないかと懸念している。
14	4頁	複数校受験できることで高校の序列化が加速する懸念がある。中学校や高校、県教育委員会で情報交換を丁寧にしてほしい。
15	4頁	複数志願制は受験生には有益だが、学校の序列化を招く危険がある。これを防ぐ対策を望む。
16	4頁	複数志願制において、第2志望校の判定を学力検査のみに依拠するとしたら、各校が求める資質を問う独自検査の趣旨が選抜に反映されず、ミスマッチが生じるおそれがあるのではないかと懸念している。
17	4頁	普通科と職業系をまたぐ志願は、入学後のミスマッチが懸念される。面接だけで意欲を判断せず、適切な適性確認の仕組みが必要と考える。
18	4頁	複数志願で第2志望校に合格した場合、独自検査未受験者が入学することになるのでは。学校側のアドミッション・ポリシーとのミスマッチが懸念される。
		複数志願制の導入については、受験生の進路選択の幅を広げ、一人ひとりが希望する進路へ積極的に「挑戦」できる環境を整えるための重要な取組と認識しています。受験生が自身の能力を最大限に発揮できる選抜制度となるよう、現行制度の拡充を図る形で、複数志願の制度設計を検討してまいります。
		複数志願制の導入にあたっては、受験生の進学機会の確保や学びの保障に配慮するとともに、県立高校の更なる魅力化を図ることが重要であると認識しております。併せて、受験生にとって分かりやすい仕組みとし、学校現場の負担にも配慮しながら、具体的な制度の在り方を検討してまいります。
		複数志願制については、学校間の序列化や格差拡大への懸念にも留意しつつ、制度設計を行う必要があると認識しております。
		複数志願制の導入にあたっては、各学校が特色ある教育活動を行うことで、受験生が自身の希望と学校の特色を照らし合わせて、進路を選択できる環境づくりが重要であると考えます。そのため、受験生一人ひとりが納得感を持って志願できるよう、各校の特色をより明確に発信し、個々の生徒の希望に合致した選択を支援する環境整備に努めてまいります。

19	4頁	複数志願制による上位校からの流入は、中間層の志望選択の自由を損なう恐れがある。制度理念との整合性を図るため、第1志望者を優先する枠の設定など、公平性を担保する具体策を求める。	複数志願制における第1志望者への配慮や地域校への影響、公平性の確保については、重要な論点であると認識しております。制度の導入に当たっては、受検生にとっての分かりやすさとともに公平性や地域の実情等を踏まえながら、具体的な制度設計を検討してまいります。
20	4頁	複数志願制においては、第1志望優先枠を設置し、スライド合格による地域校の空洞化を防ぎ、志望校への熱意ある生徒を確実に確保することを求める。	
21	4頁	全日制と定時制・通信制の併願が可能となるよう制度の改善を求める。	全日制と定時制・通信制との併願の在り方については、受検機会の確保や進路選択の幅を広げる観点からの御意見として受け止めております。今後、定時制・通信制の選抜の在り方を踏まえて、制度全体との整合性や運用面を勘案し、具体的な制度設計を検討してまいります。
22	4頁	全日制に加え、定時制・通信制も併願可能とする志願制度の改善を求める。	
23	4頁	複数志願制の導入にあたっては、制度を複雑化させないことが不可欠である。他県で見られるような学校の限定や加点ルールなどの制約は、かえって安全志向の出願を招く恐れがある。制度の趣旨である「第1志望への挑戦」を実現するためには、受検生にとってシンプルで分かりやすい仕組みを構築すべきである。	複数志願制の導入にあたっては、制度の趣旨が十分に生かされるよう、受検生にとって分かりやすい仕組みとすることが重要であると認識しております。また、学校独自検査や入試事務を含め、中学校・高等学校の負担軽減にも十分配慮しながら、円滑な実施に向けて、制度の在り方や必要な体制整備を検討してまいります。
24	4頁	複数志願制での独自検査負担を軽減するため、学校間の協働や内容の共通化を図るべきだ。配点調整等による多角的な選抜の工夫も必要ではないか。	
25	4頁	複数志願制による事務の複雑化が懸念される。中学校・高校の負担軽減のため、入試事務を一元管理するシステムや組織の構築を求める。	
26	4頁	複数志願制には賛成。ただし、合格者判定の事務負担増が懸念されるほか、専門高校については学科が多いため、志願者が理解しやすい募集形態の工夫が必要である。	

御意見の趣旨		県の考え方
3. 〈視点3〉選抜期間のスリム化を図る選抜制度：「前期入学者選抜」において定員の100%を募集することについて		
1	4頁	推薦入学者選抜を導入した目的と実情が乖離しているので、一本化することについては賛成。
2	4頁	自己推薦入試の受検者数増加、定員割れによる中学生の学習意欲の低下の状況を鑑みると、入試一本化は現状を改善する適切な流れである。
3	4頁	自己推薦型推薦入試における学習の軽視や、合格内定後の学習意欲低下による授業の困難化の実態がある。入試機会の一本化および5教科による学力検査の実施で改善が見られるのではないかと。
4	4頁	入試の回数削減や前期での全募集には賛成である。
5	4頁	前期入試で定員の100%を募集することで、前期で合格する生徒が増える。また、関係者全員の負担軽減と、入試期間の前倒し・短縮を実現できる。
6	4頁	前期での一括募集により合格枠を広げ、後期入試の負担や受検者への負担の軽減効果に期待する。
7	4頁	試験の集約は、学校側と受検生双方の負担軽減に繋がる。
8	4頁	選抜期間短縮による負担軽減は意義がある。
9	4頁	入試を前期・後期へ一本化し、業務負担軽減と入試期間の短縮、受験生の負担減を期待する。
10	4頁	入試一本化や複数志願制の導入に賛成。受験生の多様な可能性を引き出し、期間短縮による教育の充実と業務改善を期待する。
11	4頁	入試の二回実施は授業時間を圧迫している。入試を一本化することで、授業時間を確保し3学期の学習指導を充実させるべきと思う。
12	4頁	入試期間の短縮により、教職員の精神的負担を軽減できる。また、授業準備の時間を十分に確保できる点でも効果的である。
13	4頁	入試期間の短縮と前倒しにより、指導の充実と年度末の業務改善を期待する。
14	4頁	年度末の業務削減ができ、教員の働き方改革や生徒の学びの保障に寄与すると期待する。
15	4頁	入試機会の集約は、高校と中学校双方の業務負担を大きく軽減する。
16	4頁	入試の一本化により、業務負担の軽減、授業確保、推薦制度の適正化を図り、生徒の学習意欲低下も防止できるのではと考える。
17	4頁	推薦入試での学力検査導入による学力確認と、入試回数削減による学校側の負担軽減は大きな利点である。
18	4頁	入試統合による業務削減と授業確保、複数志願制による選択肢の拡大を評価する。
19	4頁	入試統合による期間短縮と選抜プロセスの整理・効率化を通じて、制度の透明性向上と業務削減を期待する。
20	4頁	入試一本化は受験生の負担減にならないのではないかと。推薦・一般それぞれの特色を強めた選抜とするなど、負担軽減と評価の多角化を両立する工夫が必要である。
21	4頁	選抜期間の短縮は意義がある一方、複数志願制や独自検査による判定の複雑化で教職員の過重負担が懸念される。実効性担保のため、具体的な判定プロセスや教職員の業務軽減策を示すべき。
22	4頁	入試一本化は業務効率化に期待できる反面、志願者の集中等による学校間の業務負担の偏りに留意が必要だと思う。
		前期入学者選抜において定員の100%を募集することについては、選抜機会の一本化により、受験生の負担軽減につながるのと同時に、学校現場における授業時間の確保及び業務負担の軽減にもつながると考えております。今後、こうした点を踏まえ、新しい選抜における評価の多角化にも留意して、具体的な制度設計を検討してまいります。
		前期入学者選抜において定員の100%を募集することについては、選抜期間の短縮や学校の業務負担の軽減につながることを期待されます。一方で複数志願制や独自検査を含む判定方法や、学校間の業務負担の偏りなどについては、十分に留意する必要があると認識しております。今後、円滑な実施に向けて、具体的な制度設計を行う中で、負担軽減について検討してまいります。

御意見の趣旨			県の考え方
4. 〈その他〉後期入学者選抜、選抜追検査、その他の選抜、推薦入学者選抜(スポーツ推薦方式)、定時制・通信制、調査書等について			
1	4頁	スポーツ推薦のみならず、文化系部活動の推薦についても設けて欲しい。	推薦入学者選抜(スポーツ推薦方式)については、日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ大会後の実施の在り方を含めて検討することとしております。いただいた御意見を参考にしながら、今後、具体的な検討を行ってまいります。
2	4頁	スポーツ推薦は結果とプロセスを評価し、学力基準を設けることで文武両道を徹底し、特定校への集中を防ぐべきだ。	
3	4頁	スポーツ推薦については、選抜基準を明確化してほしい。	
4	4頁	現行のスポーツ推薦の中学校側への負担感に鑑み、今後のスポーツ推薦の在り方を検討して欲しい。	
5	4頁	欠席欄の廃止や観点別評価等の項目の簡素化を求めるとともに、前期・後期での調査書提出の重複をなくし、中学校現場の業務削減を図ってほしい。	調査書については、入学者選抜の資料として真に必要な事項とする方向で、現行の調査書の項目を精選することとしております。いただいた御意見を参考にしながら、今後、具体的な検討を行ってまいります。
6	4頁	欠席欄の廃止や観点別評価等の項目の簡素化を求める。	
7	4頁	調査書について、評価者の主観や文章力に左右される記述式項目を極力排除し、数値で評価可能な項目に限定すべきである。	
8	4頁	調査書評価は、AIを活用し教員の主観を排除すべきだ。透明性を高めるとともに、現場の事務負担を大幅に削減できる。	

御意見の趣旨		県の考え方
<b>5. 〈上記以外〉入試制度全般・入試制度運用・実施環境等について</b>		
1	4頁	多角的な評価と選択の幅を広げる新制度に賛同。教育の接続と学びの継承に向けた有意義な改革である。
2	4頁	初等教育段階からの積み重ねの上に高校入試が行われるという理念がよい。
3	4頁	近年の学力低下という課題に対し、初等・中等教育の接続を重視する「学びのバトン」という方針は、現状に合致している。
4	4頁	生徒の主体的な進路選択を促し、各校のアドミッションポリシーに基づく魅力化を期待する。
5	4頁	部活動実績に依存しない進路指導の確立が重要である。部活動以外の面で、教育内容の魅力で生徒が選ぶ公立高校づくりを求める。
6	4頁	多くの公立高校で定員割れが生じる現状において、本制度導入の目的が単なる充足の効率化ではないことを明確にすべきだ。制度が解決する具体的課題や教育的効果について、客観的データに基づいた丁寧な説明が必要と考える。
7	4頁	新制度は推薦と一般の融合に過ぎず、従来との違いが不明瞭である。「多角的な評価」を謳うのであれば、具体的な選抜手法や改善点を明確に説明すべき。
8	4頁	後期入試における前期入試の成績利用の可否、宮崎国スポ終了後のスポーツ推薦の継続性、選考資料の具体例、調査書の具体的見直し項目について、どのようになるのかと思う。
9	4頁	公立中学校の入試・卒業式・修了式の時期を早めることで、進路が定まらない生徒への支援が充実できるのではないか。
10	4頁	中学校卒業式後の入試実施を検討してはどうか。入試までの学習期間を十分に確保し、授業の過密化と高校入学前の学習空白を解消できるのではと考える。
11	4頁	学習期間確保のため、入試は3月上旬実施が望ましい。過密な授業計画を見直し、卒業まで学習に集中させたい。
12	4頁	家庭の経済的負担の分散と、異動期前に教員が生徒ケアに専念できる環境を構築できるので、3月上旬までの可否確定スケジュールがよい。
13	4頁	5教科の学力検査については賛成だが、現在の入試時期(2月上旬頃)では卒業までの指導が困難になるという懸念があり、中学校の管理規則の改定(卒業式の時期)も含めて実施時期を検討してほしいという声がある。
14	4頁	学習内容の履修期間を確保するため、前期入試は2月中旬以降に実施してほしい。
15	4頁	入試の一本化による業務軽減は評価するが、実施時期には慎重であるべきだ。時期を3月上旬とすれば私立専願者の増加、2月上旬に実施すれば教科書未修了での受検、2月中旬以降にすると、高校の学年末考査・成績処理との兼ね合いで、現場への影響や弊害が大きい。
16	4頁	3月の年度内に終える検査実施がよい。
17	4頁	前期選抜は私立との時期を合わせ2月上旬～中旬の実施が望ましい。また、高専と県立の併願を可能にし、高専の可否に応じて進学先を柔軟に選択できる仕組みを構築してほしい。
18	4頁	早期の進路確定による年度末の教育現場への影響が懸念される。卒業時期の前倒しなど、教育課程全体を見直す抜本的な改革を望む。
		本制度においては、多面的な評価による選抜や受検生の進路選択の幅の拡大を図るとともに、初等中等教育を通じた学びのつながりと生徒の主体的な進路選択を大切にす観点から、新しい選抜制度の検討を進めております。新制度の制度の趣旨や内容については、受検生や保護者の皆様に分かりやすく示すことができるよう工夫してまいります。 また、入試制度の変更は、県立高校の魅力化・特色化に資するものと考えております。教育内容の充実等を図り、選ばれる県立高校づくりに努めてまいります。
		今回のパブリック・コメントを踏まえ、具体的な制度設計を行う中で、検討してまいります。
		入学者選抜の実施時期については、中学校及び高等学校における教育課程への影響、受検生の学習期間の確保、進路指導や学校運営への影響などを踏まえ、多面的な視点から検討する必要があると考えております。他県の実施状況も参考としつつ、いただいた御意見を参考にしながら、検討してまいります。

19	4頁	令和10年度からの実施で適している。	
20	4頁	新たな入試実施年度の子どもを持つ保護者として、急な制度変更に混乱している。	従来から、入試制度の大きな変更を行う場合は、概ね、2年前に変更の方針を示すこととしており、今回も、これを踏まえて、変更の素案を示したところです。今回いただいた御意見を参考にしながら、今後も丁寧な情報提供に努めてまいります。
21	4頁	スタートの学年になる中学2年生やその保護者は大変不安だと思われる。丁寧な情報提供をお願いしたい。	
22	4頁	入試をWeb出願化し、データ連携で事務作業を効率化すべきだ。教員の負担軽減のため導入を検討してほしい。	出願手続については、受検生や保護者の利便性向上に加え、中学校や高等学校の事務負担軽減を図ることが重要であると認識しております。Web出願を含む出願手続の在り方について、いただいた御意見を参考にしながら、今後、具体的な検討を行ってまいります。
23	4頁	県証紙廃止を契機に、保護者責任によるWeb出願へ移行してはどうか。デジタルデータによる処理を導入することで、ペーパーレス化と事務負担の大幅な軽減を図ることができる。	
24	4頁	教員の負担軽減となり手不足解消のため、学校経由の出願を廃止し、出願忘れの救済措置を講じつつ、Web出願へ移行してはどうか。	
25	4頁	中学校での実カテストの活用や、実カテストを活用した面接のみの選抜などで、生徒・教員の負担を軽減を図ってはどうか。	
26	4頁	タブレット端末を活用した試験の実施により、試験時間の短縮や採点・合否判定の迅速化を図り、生徒の精神的負担を軽減した方がよい。	新しい入試制度における検査方法や選抜方法については、受検生の力を適切に把握するとともに、生徒や学校現場の負担にも配慮したものととなるよう、今後、具体的な検討を行ってまいります。
27	4頁	デジタル社会に対応する教育の接続と人材育成の観点から、学力検査へ「情報(技術)」教科を追加する検討を求める。	
28	4頁	5教科化に伴い、支援を要する生徒に対して試験時間の延長や休憩確保、別室受験等の配慮を実施して欲しい。	
29	4頁	入試一本化には賛成だが、定員割れ問題の総括と対策が急務である。入試制度変更だけでは解決しない。	現行制度の選抜検査においても、支援を要する生徒への配慮については、在籍する中学校での状況等を踏まえて、適切に行ってまいりました。引き続き、新制度においても、特別な配慮を必要とする受検生への適切な配慮を実施してまいります。  入試制度の変更は、県立高校の魅力化・特色化に資するものと考えております。現在、国においても高校教育改革を進めるよう動いており、本県においても高校教育改革の実行計画を今年度中に策定することとしております。本県の状況を踏まえ、県立高校の在り方を検討していく中で、今回いただいた御意見を踏まえて、改革を進めてまいります。
30	4頁	入試改善は時宜にかなうものだが、高校の特色化や教育課程の魅力向上といった抜本的な改革を同時に進めるべきだ。	
31	4頁	設備更新と専門高校への附属中設置を提案する。また、教育の質確保のため、学校再編や適正規模への運営見直しも、入試改善と併せて必要である。	
32	4頁	定員割れ校で成人向け「学び直し選抜」を新設し、定員確保と教育機会拡大を図ることができるのではないかな。	